

## 国際観光学科 2年 前期 専門基礎科目／専門科目

1. 起業論
2. 旅行企画実務実習(海外)
3. 観光ICT開発実務実習
4. 観光開発実務実習(アドベンチャー・ツーリズム)
5. 観光開発実務実習(ユニバーサル・ツーリズム)
6. 観光開発実務実習(食のツーリズム)
7. 卒業研究

## 国際観光学科

科目名: 起業論				担当教員 氏名: 山田 拓					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	1年次 後期	専門科目	講義	選択必修					
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
観光業、とりわけ、旅行業、宿泊産業、飲食サービス業 や添乗員派遣業などの起業に際して必要な知識全般について起業経験者による授業を、実際の経験を中心に、乗り越えるべき課題や、実現のための資金、法制度等の条件整備のほか、留意すべきポイントなどをテーマに展開する。主に「アドベンチャー・ツーリズム」、「一般旅行業」起業のための基礎講座である。					起業、マーケティング、ツーリズム、サステイナブルツーリズム、アドベンチャーツーリズム、SDGs、地方創生				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1・3・4・5・7・8・10				
B 専門的技術	社会貢献、自己実現に技術が活用できる。								
C 論理的思考力	情報や知識を複眼的、論理的に分析し表現できる。								
D 問題解決力	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理してその問題を解決できる。								
E 自己管理能力	地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。								
G 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①講義: 概論									
②講義: 宿泊業(ゲストスピーカー)									
③グループワーク: 事例研究									
④グループワーク: 事例研究									
⑤プレゼンテーション: (事例研究について)									
⑥講義: 旅行業(ゲストスピーカー)									
⑦グループワーク: 事例研究									
⑧プレゼンテーション: (事例研究について)									
⑨講義: マーケティング									
⑩グループワーク: マーケティング									
⑪講義: ビジネスモデリング									
⑫グループワーク: ビジネスモデリング									
⑬グループワーク: ビジネスモデリング									
⑭プレゼンテーション: ビジネスモデリング									
⑮講義: 起業論まとめ									
使用テキスト:				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ツーリズム分野での起業について、実践的な内容をアクションラーニング形式で実施する講座です									

科目名: <b>旅行企画実務実習(海外)</b>				担当教員 氏名: <b>藤本 幸男</b>	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門基礎科目	実習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っている		30年間に及ぶ旅行業における商品企画の体験の中から、象徴的ないくつかのエピソードを中心に「ヒット商品の作り方」を学ばせたい。			
授業科目の学習教育目標の概要: 「旅行事業経営論」、「旅行企画論」の履修を前提に、実際の商品企画開発、および商品化を学生自らが行う。具体的テーマは「海外旅行離れの若者をいかにして海外に目を向けさせるか」であり、デスティネーションは世界有数の観光地ハワイとする。若者を海外に連れ出す仮説をいくつか設定し、過去の先行研究やデータをもとに商品企画案を作るが、そのプロセス上で、現地踏査を行い疑問の箇所を確認する。具体的には、現地旅行会社との企画会議への出席や、ホテル視察、現地大学生との意見交換等を通して、最終的に企画商品として発表させる授業における学修の到達目標				キーワード  商品企画、事業性、継続性、顧客ニーズ	
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		1. 2. 3. 6.			
A 知識・理解力	知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる。				
C 論理的思考力	情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: %	発表: 100 %	実技試験: %	その他: %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表はワークの区切りごと					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: プレゼンの評価は最終回					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①グループワークⅠ-(1)「商品企画とは何か?を考える」			復習	120分	
②グループワークⅠ-(2)「商品企画とは何かの発表」			予習・復習: 配布資料	240分	
③グループワークⅠ-(3)「商品企画とは何かの概説、および発表に関する評価」			予習・復習: 配布資料	240分	
④グループワークⅡ-(1)「若者対象のハワイ商品を企画する一どんな手法が最も成功するか」の議論			予習・復習: 配布資料	240分	
⑤グループワークⅡ-(2)「若者対象のハワイ商品を企画する一どんな手法が最も成功するか」の議論			予習・復習: 配布資料	240分	
⑥グループワークⅡ-(3)「若者対象のハワイ商品を企画する一どんな手法が最も成功するか」の議論」発表			予習・復習: 配布資料	240分	
⑦グループワークⅢ-(1)「それぞれの手法に従って商品企画実践」			予習・復習: 配布資料	240分	
⑧グループワークⅢ-(2)「それぞれの手法に従って商品企画実践」			予習・復習: 配布資料	240分	
⑨グループワークⅢ-(3)「それぞれの手法に従って商品企画実践」			予習・復習: 配布資料	240分	
⑩グループワークⅢ-(4)「それぞれの手法に従って商品企画実践」			予習・復習: 配布資料	240分	
⑪グループワークⅢ-(5)各グループプレゼン			予習・復習: 配布資料	240分	
⑫グループワークⅣ-(1)「プレゼンに対する講評、改善点指摘」			予習・復習: 配布資料	240分	
⑬グループワークⅣ-(2)「企画案改善」			予習・復習: 配布資料	240分	
⑭グループワークⅣ-(2)「改善企画案発表」			予習・復習: 配布資料	240分	
⑮ふりかえり-全体講評			予習・復習: 配布資料	240分	
使用テキスト:			その他参考文献など: 藤本幸男著「商品企画の理論と実践」(図書館蔵書)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): それぞれの学生が旅行会社の経営者になり、事業として成功することを常に意識して議論されたい。					

国際観光学科

科目名: 観光ICT開発実務実習				担当教員 氏名: 米田 晶					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
「観光ICT事例研究」で学んだデータ分析手法をさらにステップアップし、県内観光関連企業、法人(DMO、鉄道会社、旅館など)と協働し、課題解決のための開発実務を行う。観光対象、観光資源、観光施設など企業、法人の関連する箇所の課題について当該個所にヒアリング、課題の抽出を行い、調査手法を決定する。調査終了後はデータ分析を通してその解決を図り、当該企業に企画提案を行う。					マーケティングリサーチ、マーケティング戦略策定、調査設計、調査、分析、課題抽出、仮説の構築、企画提案				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1・3・8・10				
B 専門的技術			社会貢献・自己実現に技術が活用できる。						
C 論理的思考力			情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。						
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	40 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">課題解決型学習</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ディスカッション、ディベート</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">グループワーク</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">プレゼンテーション</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">実習、フィールドワーク</span>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: フィールドワーク終了後、調査実施後、適宜発表および課題提出があります。授業計画を参照ください。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① イントロダクション				配布資料を読み込む	90分				
② 消費者行動のプロセスについて				配布資料を読み込む	90分				
③ リサーチプロセスと課題の発見・定義				配布資料を読み込む	90分				
④ リサーチデザイン				配布資料を読み込む	90分				
⑤ 調査の手法について: 定量調査と定性調査				配布資料を読み込む	90分				
⑥ フィールドワークとその技法				配布資料を読み込む	90分				
⑦ 二次データと収集方法				配布資料を読み込む	90分				
⑧ 一次データと収集方法				配布資料を読み込む	90分				
⑨ フィールドワークの論理				配布資料を読み込む	90分				
⑩ フィールドワーク実習準備				フィールドの決定、役割分担など	90分				
⑪ フィールドワーク(実習)				フィールドノートの作成	90分				
⑫ フィールドワーク(実習)				※ 各自フィールドノート提出	フィールドノートの作成	90分			
⑬ フィールドについて分析する: KJ法				分析結果をまとめる	90分				

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)	
	学習内容	学習に必要な時間(分)
⑭ グループ発表: フィールドワークとその分析結果 ※ パワーポイント資料提出	配布資料を読み込む	90分
⑮ デプスインタビューを行う(講義・実習)	該当フィールドへの観光経験者にデプスインタビューを行う(2名)	90分
⑯ デプスインタビューの内容から仮説を抽出する	ラダリング法による分析を完成させる	90分
⑰ 質問紙の作成(講義)	配布資料を読み込む	90分
⑱ アンケート項目を作成する(実習)	アンケート項目を完成させる	90分
⑲ Webアンケートを作成 ※ アンケート調査開始	フォーマットへの入力を完成させる	90分
⑳ サンプルデザインのプロセス	配布資料を読み込む	90分
㉑ データ分析の方法	配布資料を読み込む	90分
㉒ データ分析の解釈	配布資料を読み込む	90分
㉓ KH Coderについて	配布資料を読み込む	90分
㉔ KH Coderの操作方法(実習)	操作に慣れるように復習する	90分
㉕ 調査結果の分析: Excellによる分析( $\chi$ 二乗検定、t検定)(講義・実習) ※ 分析結果提出	分析データを提出する	90分
㉖ 調査結果の分析: Excellによる分析(一元配置分散分析、相関分析)(講義・実習) ※ 分析結果提出	分析データを提出する	90分
㉗ KH Coderを使った分析(実習)	調査データを入力する	90分
㉘ KH Coderを使った分析(実習) ※ 分析結果提出	分析データを提出する	90分
㉙ 調査結果まとめ(実習)	調査結果をまとめる	90分
㉚ グループ発表: 調査結果 ※ パワーポイント資料提出	実習内容を復習し理解する	90分
使用テキスト: 特になし。毎回資料を配布します。		その他参考文献など: 「マーケティングリサーチ入門」ISBN 978-4-569-70449-4 「マーケティング・サイエンス入門」ISBN 978-4-641-12438-7
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): マーケティング戦略策定のために必要なマーケティングリサーチの基礎知識と科学的な分析手法をしっかりと習得しましょう。		

国際観光学科

科目名: 観光開発実務実習(アドベンチャー・ツーリズム)				担当教員 氏名: 山田 拓、鷹西 恒、米田 晶		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要: 飛騨古川の美ら地球(ちゅらぼし)を拠点としたアドベンチャー・ツーリズムの実務実習を行う。具体的には主に訪日外国人客を対象とした、サイクリングツアー、ウォーキングツアー等を体験すると共に、新しいコンテンツの企画開発を行う。英語によるガイドング、また古民家再生の手法なども現場で学ぶ。コンテンツの企画開発については、最終的に現地で実際に業務に当たるプロのガイドや企画担当者前でプレゼンテーションを行う企画発表会や、意見交換会を開催し、アドベンチャー・ツーリズムの富山を初め国内各地における商品化の可能性を、商品の魅力、事業性、継続性等の観点から学ぶ。自らの開発商品の提案は卒業研究につなげていく。						キーワード アドベンチャー・ツーリズム、ブランディング、着地型観光、エコツーリズム、持続可能な観光、デスティネーション・マーケティング、デスティネーション・マネジメント、事業ポートフォリオ、地域経営
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1・3・8・10	
B 専門的技術			社会貢献・自己実現に技術が活用できる。			
C 論理的思考力			情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	20 %	発表:	30 %	実技試験: 20 %
その他: 30 %						
特記事項:						
アクティブラーニング要素: <span>課題解決型学習</span> <span>ディスカッション、ディベート</span> <span>グループワーク</span> <span>プレゼンテーション</span> <span>実習、フィールドワーク</span>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① ガイダンス(旅行業におけるコロナ対策ガイドライン)				配布資料を読む	90分	
② 実習前指導:消毒方法等衛生指導(講義)(境先生)				配布資料を読みこむ	90分	
③ 実習前指導:消毒方法等衛生指導(実習)(境先生)				指導内容を復習する	90分	
④ 実習前指導:ツアー実施のながれ(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				配布資料を読みこむ	120分	
⑤ 実習前指導:コースの下見(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				関連資料収集	60分	
⑥ 実習前指導:コースの下見と役割分担(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				関連資料収集	60分	
⑦ 実習前指導:ガイドング準備(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				ガイドング準備	120分	
⑧ 実習前指導:ツアー実習(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				実習内容のふりかえり	60分	
⑨ 実習前指導:ツアー実習(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				ふりかえりレポート作成	60分	
⑩ 実習事前指導:まとめ				実習にむけて準備	90分	
⑪ 実習実施:ツアー実施のながれ				実習プランの内容確認	60分	
⑫ 実習実施:ツアー実施のながれ				実習プランのコース確認	90分	

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)	
	学習内容	学習に必要な時間(分)
⑬ 実習実施: コースの下見	実習プラン内のコロナ対策が必要なポイントを確認	90分
⑭ 実習実施: コースの下見	実習プラン実施時に必要な役割あらいだし	120分
⑮ 実習実施: ガイディング準備	ガイディング内容をまとめる	90分
⑯ 実習実施: ガイディング準備	ガイディング・コロナ対策準備	120分
⑰ 実習実施: ツアー実習	ガイディング・コロナ対策準備	60分
⑱ 実習実施: ツアー実習	ガイディング・コロナ対策準備	60分
⑲ 実習実施: ツアー実習	アンケート内容を理解し実施	60分
⑳ 実習実施: 実習まとめ	実習内容をふりかえりまとめる	90分
㉑ 事後実習: 実習報告会(プレゼン)	実習の内容をまとめる	90分
㉒ 事後実習: アンケート分析(定性分析)(1)	アンケート内容を入力	60分
㉓ 事後実習: アンケート分析(定性分析)(2)	分析を仕上げる	120分
㉔ 事後実習: アンケート分析(定量分析)(1)	アンケート内容を入力	60分
㉕ 事後実習: アンケート分析(定量分析)(2)	分析内容を視覚資料にまとめる	120分
㉖ 事後実習: アンケート分析(定性・定量分析)プレゼンテーション	定性・定量分析をまとめる	120分
㉗ 事後実習: アンケートの改善点からプランをブラッシュアップ(1)	改善点を確認・検討する	120分
㉘ 事後実習: アンケートの改善点からプランをブラッシュアップ(2)	プランを検討する	90分
㉙ 事後実習: ブラッシュアップしたプランを最終プレゼンテーション	最終プラン作成・プレゼン資料作成	120分
㉚ 事後実習: まとめ(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	事前・実習・事後の内容を再確認	120分
使用テキスト: 特になし	その他参考文献など: 新潮新書「外国人が熱狂するクールな田舎の作り方」	
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ):  国内外から多くの注目を集めるツアー実施現場を体感できる授業です。観光産業のダイナミックさや将来性を考えたい学生にはピッタリの授業科目です。</p>		

国際観光学科

科目名: 観光開発実務実習(ユニバーサル・ツーリズム)				担当教員 氏名: 鷹西 恒、米田 晶					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っている									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
旅行開発事例研究の授業の中で取り上げた、ユニバーサルデザイン旅行センター(クラブツーリズム株式会社)と協働して、インバウンドに特化した富山の地域創生につながる研究テーマを設定する。同社のリフト付きバスにアシスタントとして同行する車いす日帰りバスツアーや、トラベルサポーターのアシスタントとして宿泊を伴う旅行に参加する中で、ユニバーサル・ツーリズムの現場実務を実習し、卒業研究につなげていく。					ユニバーサルツーリズム、ブランディング、着地型観光、エコツーリズム、持続可能な観光、ユニバーサルデザイン、旅行開発				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1・3・8・10				
B 専門的技術			社会貢献・自己実現に技術が活用できる。						
C 論理的思考力			情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。						
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	20 %	発表:	30 %	実技試験:	20 %	その他:	30 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: <span>課題解決型学習</span> <span>ディスカッション、ディベート</span> <span>グループワーク</span> <span>プレゼンテーション</span> <span>実習、フィールドワーク</span>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
① ガイダンス(旅行業におけるコロナ対策ガイドライン)					配布資料を読む	90分			
② 実習前指導:消毒方法等衛生指導(講義)(境先生)					配布資料を読みこむ	90分			
③ 実習前指導:消毒方法等衛生指導(実習)(境先生)					指導内容を復習する	90分			
④ 実習前指導:ツアー実施のながれ(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)					配布資料を読みこむ	120分			
⑤ 実習前指導:コースの下見(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)					関連資料収集	60分			
⑥ 実習前指導:コースの下見と役割分担(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)					関連資料収集	60分			
⑦ 実習前指導:ガイドング準備(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)					ガイドング準備	120分			
⑧ 実習前指導:ツアー実習(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)					実習内容のふりかえり	60分			
⑨ 実習前指導:ツアー実習(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)					ふりかえりレポート作成	60分			
⑩ 実習事前指導:まとめ					実習にむけて準備	90分			
⑪ 実習指導:実習プランの確認とツアー実施のながれ確認					実習プランの内容確認	60分			
⑫ 実習指導:コースの下見・ツアーのながれ確認					実習プランのコース確認	90分			

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)	
	学習内容	学習に必要な時間(分)
⑬ 実習指導:コースの下見・コロナ対策ポイントの確認	実習プラン内のコロナ対策が必要なポイントを確認	90分
⑭ 実習指導:コースの下見・役割分担	実習プラン実施時に必要な役割あらいだし	120分
⑮ 実習指導:ガイディング準備	ガイディング内容をまとめる	90分
⑯ 実習指導:モニターツアー実施	ガイディング・コロナ対策準備	120分
⑰ 実習指導:モニターツアー実施	ガイディング・コロナ対策準備	60分
⑱ 実習指導:モニターツアー実施	ガイディング・コロナ対策準備	60分
⑲ 実習指導:モニターツアー実施・アンケート実施	アンケート内容を理解し実施	60分
⑳ 実習指導:まとめ	実習内容をふりかえりまとめる	90分
㉑ 事後実習:実習報告会(プレゼン)	実習の内容をまとめる	90分
㉒ 事後実習:アンケート分析(定性分析)(1)	アンケート内容を入力	60分
㉓ 事後実習:アンケート分析(定性分析)(2)	分析を仕上げる	120分
㉔ 事後実習:アンケート分析(定量分析)(1)	アンケート内容を入力	60分
㉕ 事後実習:アンケート分析(定量分析)(2)	分析内容を視覚資料にまとめる	120分
㉖ 事後実習:アンケート分析(定性・定量分析)プレゼンテーション	定性・定量分析をまとめる	120分
㉗ 事後実習:アンケートの改善点からプランをブラッシュアップ(1)	改善点を確認・検討する	120分
㉘ 事後実習:アンケートの改善点からプランをブラッシュアップ(2)	プランを検討する	90分
㉙ 事後実習:ブラッシュアップしたプランを最終プレゼンテーション	最終プラン作成・プレゼン資料作成	120分
㉚ 事後実習:まとめ(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表)	事前・実習・事後の内容を再確認	120分
使用テキスト:特になし	その他参考文献など: 観光庁「ユニバーサルツーリズムについて」	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):		

国際観光学科

科目名: 観光開発実務実習(食のツーリズム)				担当教員 氏名: 米田 晶、鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っている						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
旅行開発事例研究の授業の中で取り上げた箇所、特に富山県内の資源、施設を中心に、富山産食材取扱商社、料理研究家、飲食店、日本酒製造所等関連企業と協働して地元振興策としてのテーマ設定を行い、実務実習の中で研究を進めていく。またスペイン、フランスのガストロノミー専門大学からの留学生との意見交換をする中で美食の都、富山の食のあり方を考え、卒業研究につなげていく。					フードツーリズム、ブランディング、伝統野菜、富山湾の海産物、6次産業化、着地型観光、エコツーリズム、持続可能な観光、DESTINATION・マネジメント、商品開発	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1・3・8・10	
B 専門的技術			社会貢献・自己実現に技術が活用できる。			
C 論理的思考力			情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 20 %	発表: 30 %	実技試験: 20 %	その他: 30 %	
特記事項:						
アクティブラーニング要素: <span>課題解決型学習</span> <span>ディスカッション、ディベート</span> <span>グループワーク</span> <span>プレゼンテーション</span> <span>実習、フィールドワーク</span>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① ガイダンス(旅行業におけるコロナ対策ガイドライン)				配布資料を読む	90分	
② 実習前指導:消毒方法等衛生指導(講義)(境先生)				配布資料を読みこむ	90分	
③ 実習前指導:消毒方法等衛生指導(実習)(境先生)				指導内容を復習する	90分	
④ 実習前指導:ツアー実施のながれ(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				配布資料を読みこむ	120分	
⑤ 実習前指導:コースの下見(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				関連資料収集	60分	
⑥ 実習前指導:コースの下見と役割分担(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				関連資料収集	60分	
⑦ 実習前指導:ガイドング準備(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				ガイドング準備	120分	
⑧ 実習前指導:ツアー実習(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				実習内容のふりかえり	60分	
⑨ 実習前指導:ツアー実習(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表・トラバース 大塚代表)				ふりかえりレポート作成	60分	
⑩ 実習事前指導:まとめ				実習にむけて準備	90分	
⑪ 実習指導:実習プランの確認とツアー実施のながれ確認(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表)				実習プランの内容確認	60分	
⑫ 実習指導:コースの下見・ツアーのながれ確認(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表)				実習プランのコース確認	90分	
⑬ 実習指導:コースの下見・コロナ対策ポイントの確認(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表)				実習プラン内のコロナ対策が必要なポイントを確認	90分	
⑭ 実習指導:コースの下見・役割分担(ゲストスピーカー:エコロの森 森田代表)				実習プラン実施時に必要な役割あらいだし	120分	

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)	
	学習内容	学習に必要な時間(分)
⑮ 実習指導: ガイディング準備・覚書にサイン(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	ガイディング内容をまとめる	90分
⑯ 実習指導: モニターツアー実施(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	ガイディング・コロナ対策準備	120分
⑰ 実習指導: モニターツアー実施(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	ガイディング・コロナ対策準備	60分
⑱ 実習指導: モニターツアー実施(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	ガイディング・コロナ対策準備	60分
⑲ 実習指導: モニターツアー実施・アンケート実施(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	アンケート内容を理解し実施	60分
⑳ 実習指導: まとめ(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	実習内容をふりかえりまとめる	90分
㉑ 事後実習: 実習報告会(プレゼン)	実習の内容をまとめる	90分
㉒ 事後実習: アンケート分析(定性分析)(1)	アンケート内容を入力	60分
㉓ 事後実習: アンケート分析(定性分析)(2)	分析を仕上げる	120分
㉔ 事後実習: アンケート分析(定量分析)(1)	アンケート内容を入力	60分
㉕ 事後実習: アンケート分析(定量分析)(2)	分析内容を視覚資料にまとめる	120分
㉖ 事後実習: アンケート分析(定性・定量分析)プレゼンテーション	定性・定量分析をまとめる	120分
㉗ 事後実習: アンケートの改善点からプランをブラッシュアップ(1)	改善点を確認・検討する	120分
㉘ 事後実習: アンケートの改善点からプランをブラッシュアップ(2)	プランを検討する	90分
㉙ 事後実習: ブラッシュアップしたプランを最終プレゼンテーション	最終プラン作成・プレゼン資料作成	120分
㉚ 事後実習: まとめ(ゲストスピーカー: エコロの森 森田代表)	事前・実習・事後の内容を再確認	120分
使用テキスト:	その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):		

国際観光学科

科目名: 卒業研究			担当教員 氏名: 鷹西 恒、米田 晶			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っている						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
「ニューツーリズム概論」およびそれぞれのツーリズムの「旅行開発事例研究」、「観光開発実務実習」を履修後、そこで設定したテーマ研究のまとめとして、実践的なインパウンドに特化した地域創生に貢献できる研究を行う。					主体性 コミュニケーション力 課題解決力	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)			1・7・8・10
B 専門的技術			社会貢献、自己実現に技術が活用できる。			
C 論理的思考力			情報や知識を複眼的、論理的に分析し表現できる。			
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理してその問題を解決できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 60 %	発表: 10 %	実技試験:	%	その他: 30 %
特記事項:その他とは、卒業研究への取り組みの態度や意欲、テーマのオリジナリティ等で総合的に評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:個別指導により、必要な(本人にとって)知識の習得、その題目にあった論文構成の方法、また、問題点があればその解決法の指導を行う						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①国際観光学部での学びにおける卒業研究の位置づけ			配付資料を読む		240分	
②研究課題の検討と決定			テーマの検討と資料収集		240分	
③個別研究指導(研究計画書の作成)			先行研究の確認と資料収集		240分	
④個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑤個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑥個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑦個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑧個別研究指導(中間報告会)			中間報告会準備および学習内容の整理		240分	
⑨個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑩個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑪個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑫個別研究指導			執筆に必要な学習を行う(調査、フィールドワーク等)		240分	
⑬卒業論文の提出と発表資料の作成			発表内容の整理、プレゼンテーション準備		240分	
⑭卒業研究発表			学生等の意見や指摘を咀嚼して考察を行う		240分	
⑮まとめ			論文等の最終チェックと提出		240分	
使用テキスト:なし。適時紹介する			その他参考文献など:『はじめてでも、ふたたびでも、これならできる! レポート・論文のまとめ方』新田 誠吾 すばる舎 ISBN 978-4799108376			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):卒業論文の場合、字数や書式等に基準が設けられる。卒業制作の場合も含め、担当者からの指示に従うこと。そして、各ツーリズムでの学びを土台としていること、指導教員の指導に従っていることが求められる。以上を前提に提出された卒業論文により評価する。						